

研究・研修報告書



令和4年10月21日

小牧市議会議長 様

会派名 無会派

代表者氏名 大上利幸

研究・研修の結果を報告します。

記

1 参加議員
大上利幸

2 日程
令和4年10月19日(水)・20(木)

3 研究・研修名
第17回 全国市議会議長会 研究フォーラム
デジタルが開く地方議会の未来

4 主催者
全国市議会議長会

5 会場
ホクト文化ホール

6 受講の目的
テーマである「デジタルが開く地方議会の未来」において、
先行している議会の取組を小牧市議会のデジタル化へ活用するため

7 主な内容

第1日 10月19日（水）

第1部では基調講演では、「コロナ後の地域経済」について、株式会社経営共創基盤（IGPI）グループ会長・株式会社日本共創プラットフォーム（JPiX）富山代表取締役社長から日本経済復興はローカル経済圏、中堅・中小企業経済圏が主流である。IGPIグループの傘下であるみちのりの取組等の説明があった。

第2部のパネルディスカッションでは、「地方議会のデジタル化の現状・課題と将来の可能性」について、コーディネーター毎日新聞社論説人羅委員から『市議会のデジタル化の取組状況』、パネリストで早稲田大学電子政府・自治体研究所岩崎教授から『地方議会のデジタル化』、東京大学先端科学技術研究センター牧原教授から『審議のオンライン化とデジタル化への対応』、明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科湯浅教授から『議会のデジタル化』、長野市議会寺沢議長から『長野市議会の状況～デジタル化への取り組み～』の説明があった。

第2日目 10月20日（木）

第3部の課題討議では『地方議会のデジタル化の取組報告』について、コーディネーター慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科谷口教授から『議会のデジタル化』、取手市議会金澤議長から『ICT活用いつでも・どこでも議会の権能を維持向上』、可児市議会板津議長から『可児市議会の取り組みについて』、西脇市議会林議長から『議会は住民自治のプラットフォーム！を目指してICTを何のために使う？議会DXへの取組』の説明があった。

8 所感・提言・課題

富山社長の基調講演の内容から、福島交通・湘南モノレール・会津バス・関東自動車・岩手県北バス・茨城交通の業績改善実績において、『労働生産性を1割上げる』目標を掲げ、「分ける化」「見える化」からCX・DXそしてIXへ素晴らしい取り組みをされていると感じています。

DX活用など新たな取り組みによる生産性向上では、

1. ICカード・・・利便性向上&路線別収支を「見える化」したいから
2. ドライブレコーダーによる事故原因分析・・・安全性向上&運転手の生産性上げたいから

3. バスロケーションシステム・・・利便性向上&お客様の取りこぼしを最小化したいから
4. AI を活用したダイナミックルーティング・・・利便性向上&過疎化地域の顧客密度上げたいから
5. 自動運転・・・来るべき運転手不足に備えたいから

等は、小牧市の「こまくる」事業でも導入の必要がある DX 活用の取組だと感じます。

この DX の取組によって、「こまくる」の利便性・安全性・生産性の向上に寄与し、そのことが運行経費負担の削減に繋がると感じています。

「議会のデジタル化と地方議会のデジタル化の取組報告」では、取組報告された他の市議会と小牧市議会を比べているとデジタル化の取組が明らかに遅れている事がわかりました。小牧市議会はハード（タブレット）の導入は報告された市議会より早い時期であったが、コロナ禍でトライした ZOOM での全員協議会実施等もその後の取組が進んでないのが現状です。今後の ICT 推進プロジェクトでのスピード感のある取組が重要であると感じています。